



大久保 勇樹
(おおくぼ ゆうき)

日本大学
理工学部
社会交通工学科



UAEでは都市のエネルギー全てをクリーンエネルギーでまかなう都市、マスタープランシティの建設が始まった。このような環境のコンセプトを掲げた都市が世界各地で計画されている。また、2050年までに、サハラ太陽エネルギーで欧州の電力需要の約15%を賄う計画、デザーテックプロジェクトが立ち上げられ、都市から国土の枠組みを超えた新たなエネルギーの循環システムが構築されている。日本においてもクリーンエネルギーへの積極的な投資及びその象徴として広く普及を促すためのモデル都市が必要であると考えます。

本提案では、新たなエネルギー創出社会において、日本の都市モデルとして太陽エネルギーを利用したエネルギー生産システムと建築・都市空間とが融合した空間を提案する。

講評

太陽エネルギー発電は他の発電システムに比べれば、設備の設置面積がかなり広大になるようですね、思いつきのアイデアオンリーの作品の多い中、きちんと計算しているところはリアリティがあり、説得力のある作品となっていると思います。国土の狭い日本で、この設置面積を海に持って行ったところはとても素晴らしい発想です。ですが、エネルギー共生都市を考える場合、一般的にはバイオ、風力、地熱と言った他のエネルギー発電システムとの組み合わせで考える方が現実的でしょう。敢えて、太陽エネルギー発電単独でのスマートシティの構想は挑戦的ですね。本作品はスマートシティと言うタイムリーな題材をよくよく研究し、具体性のない哲学的な話に終始せず、数字で裏付けを試みた秀逸な作品です。

今般の地震による原発事故 電力不足 計画停電と日常生活にも支障が出ています。更なるクリーンエネルギー研究に期待します。(審査委員：林美栄子)

